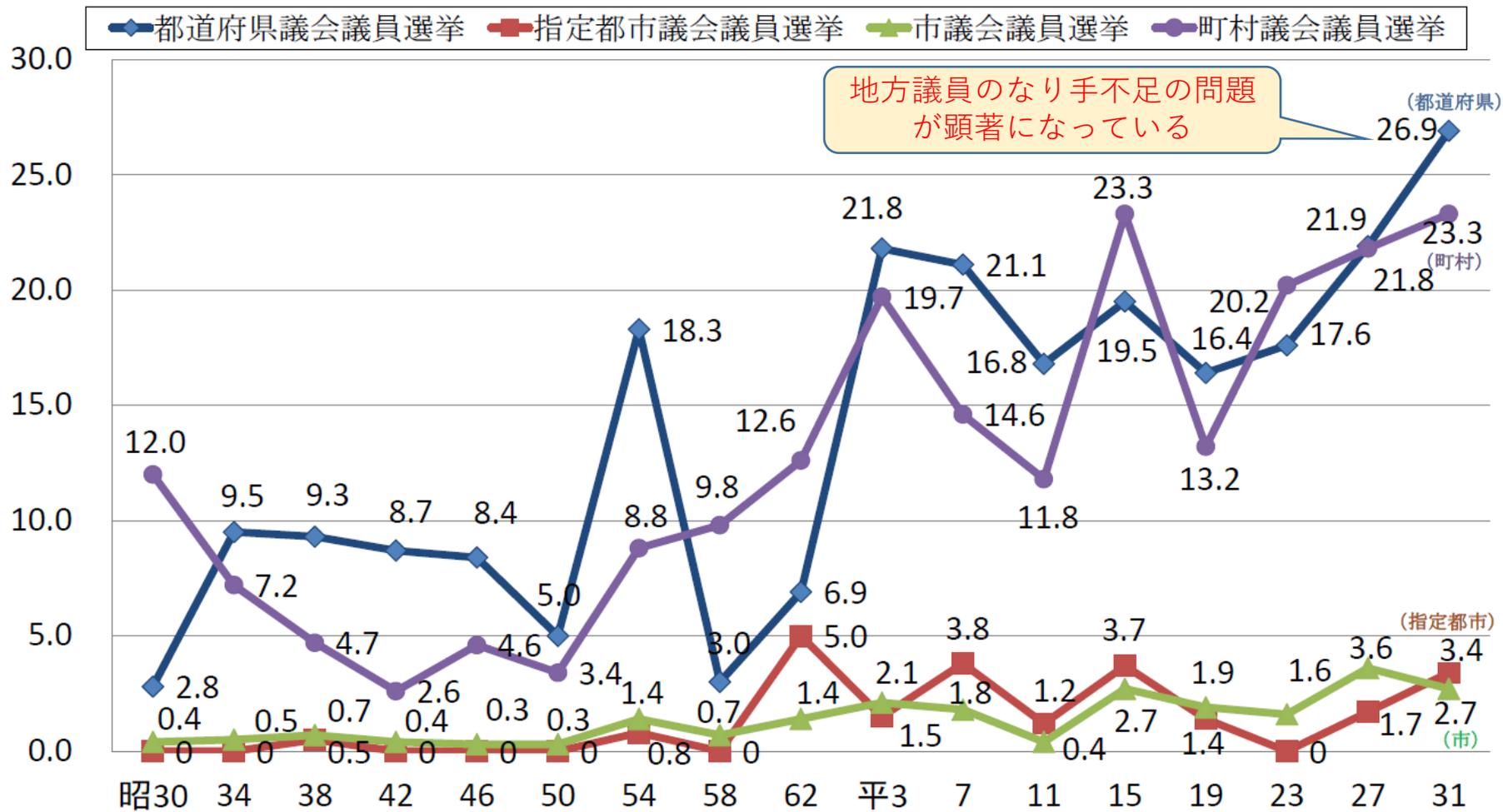


地方議会についての現状と課題 【参考資料】

令和6年12月



地方議員のなり手不足の問題が顕著になっている

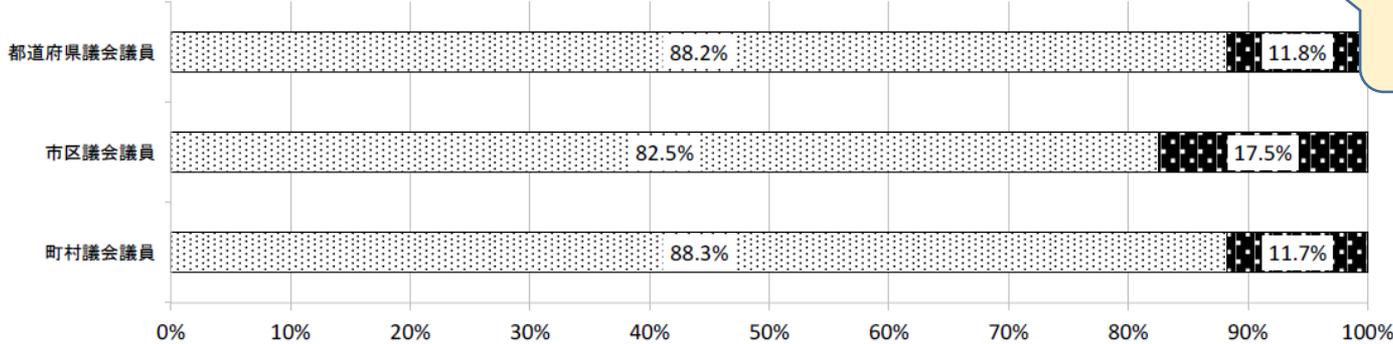
出所：総務省「地方選挙結果調」等を基に作成。（本調査は、統一地方選挙の際に実施したもの）
 注1：第1回、第2回統一地方選挙の際は調査を実施せず。
 注2：市については、東京都特別区を除く。

□ 議員の構成は、住民の構成と比較して女性や60歳未満の割合が極めて低い状況となっており、性別や年齢構成の面で多様性を欠いている。

女性や若者の地方議会への参画が社会課題解決のために重要

□ 男性
■ 女性

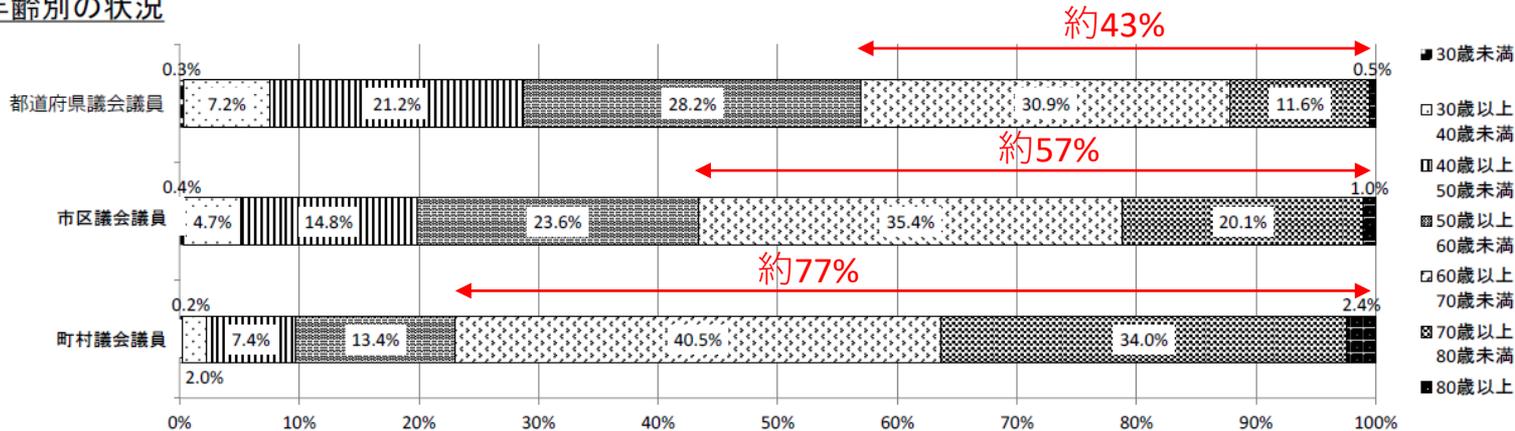
○ 男女の比率



出典：総務省「地方公共団体の議会の議員及び長の所属党派別人員調」(令和3年12月31日現在)

(参考) 令和2年国勢調査における人口に占める男女比：男性49% 女性51%

○ 年齢別の状況



注：小数点第2位以下四捨五入のため、割合の合計が100%とならない場合がある。

出典：全国都道府県議会議長会「第14回都道府県議会提要」(令和元年7月1日現在)
 全国市議会議長会「市議会議員の属性に関する調」(令和3年7月1日現在)
 全国町村議会議長会「第67回町村議会実態調査結果の概要」(令和3年7月1日現在)

(参考) 令和2年国勢調査における人口に占める60歳以上の比率：34%

【調査の概要】

1. 立候補を検討したが断念した者に対するアンケート調査

国政選挙や地方議会選挙、首長選挙に立候補しようと考え、具体的な行動（身近な人に話す、政治家に話を聞く等）を起こしたが、断念した者を対象としてインターネットモニター調査を実施（調査期間：令和2年12月24日～令和3年1月31日）。合計994人（男性500人、女性494人）から回答を得た。

2. 男女の地方議会議員に対するアンケート調査

地域、議会の種類等を考慮して抽出した1,144の地方議会の男女議員10,100人を対象として、紙媒体の調査票又はウェブによる調査を実施（調査期間：令和2年12月25日～令和3年1月31日）。合計5,513人（男性3,243人、女性2,164人）から回答を得た（回収率54.6%）。

1. 立候補を検討したが断念した者に対するアンケート調査結果

(1) 立候補を断念した理由

◆ 立候補を断念した理由の上位3項目は、男女共に、「立候補に係る資金の不足」、「仕事や家庭生活（家事、育児、介護等）のため、選挙運動とその準備にける時間がない」、「知名度がない」となった。

上位10項目についてみると、「自分の力量に自信が持てない」、「当選した場合、家庭生活との両立が難しい」で男女の差が大きくなっており、女性にとって大きな障壁となっていることが分かる。【表1-1】

【表1-1】立候補を断念した理由（「大いにあてはまる」及び「ややあてはまる」の合計、女性の上位10項目）

順位	項目	女性	男性	順位	項目	女性	男性
1	立候補にかかる資金の不足	68.0%	63.6% (1位)	5	選挙運動とその準備の方法が分からない	49.6%	42.2% (9位)
2	仕事や家庭生活（家事・育児・介護等）のため、選挙運動とその準備にける時間がない	61.7%	62.4% (2位)	7	自分の力量に自信が持てない	48.0%	38.4% (11位)
3	知名度がない	60.9%	62.4% (2位)	8	当選した場合、家庭生活との両立が難しい	47.8%	38.8% (10位)
4	当選の見込みが低く感じられた	56.3%	56.6% (4位)	9	当選した場合、仕事をやめなければならない	47.2%	44.2% (7位)
5	家族の理解やサポートが得られない	49.6%	51.2% (5位)	10	政党や団体のポスティング支援、金銭的助成等の支援が得られない	45.3%	46.2% (6位)

※全17項目についてそれぞれの程度あてはまるかを選択。 ※男女間で7.0%ポイント以上の差があるものに不等号を記載。

立候補環境の整備や当選後も仕事を続けられる環境の整備が、女性や若者の地方議会への参画につながる可能性がある

2. 男女の地方議会議員に対するアンケート調査結果

(1) 立候補を決める段階から選挙期間中の課題

◆ 立候補を決める段階から選挙期間中の課題について、女性の上位3項目は、「知名度がない」、「仕事や家庭生活(家事、育児、介護等)のため、選挙運動とその準備にかかる時間がない」、「選挙運動とその準備の方法が分からない」となった。上位10項目についてみると、「性別による差別やセクシャルハラスメントを受けた」、「自分の力量に自信が持てない」、「知名度がない」、「地元で生活する上で、プライバシーが確保されない」等で男女の差が大きくなっており、女性にとって大きな障壁となっていることが分かる。【表2-1】

【表2-1】立候補を決める段階から選挙期間中の課題（「大いにあてはまる」及び「ややあてはまる」の合計、女性の上位10項目）

順位	項目	女性	男性	順位	項目	女性	男性
1	知名度がない	59.8%	38.1% (4位)	6	立候補にかかる資金の不足	40.0%	39.7% (3位)
2	仕事や家庭生活(家事、育児、介護等)のため選挙運動とその準備にかかる時間がない	48.9%	36.5% (5位)	7	当選した場合、議員活動と家庭生活との両立が難しい	30.4%	18.5% (11位)
3	選挙運動とその準備の方法が分からない	46.4%	40.6% (2位)	8	立候補を阻むような言動を受けた	29.9%	20.1% (10位)
4	自分の力量に自信が持てない	42.1%	18.5% (11位)	9	当選した場合、仕事を辞めなければならない	26.2%	24.3% (7位)
5	地元で生活する上で、プライバシーが確保されない	40.4%	26.1% (6位)	10	性別による差別やセクシャルハラスメントを受けた	24.9%	0.9% (17位)

立候補環境の整備や当選後も仕事を続けられる環境の整備が、女性や若者の地方議会への参画につながる可能性がある